

開講年度	開講学部等				
2026	共同獣医学部				
開講学期	曜日時限	授業区分	AL(アクティブ・ラーニング)ポイント		
通年	集中	実習			
時間割番号	科目名[英文名]				単位数
	馬救急医療実践力育成プログラム[Equine emergency medical practical skills development program]				120時間
担当教員(責任)[ローマ字表記]					
佐々木直樹 [SASAKI NAOKI]					
登録状況	前回登録者			本登録日時	前回更新日時
担当教員[ローマ字表記]					
佐々木 直樹 [SASAKI NAOKI], 高木 光博 [TAKAGI MITSUHIRO], 谷口 雅康 [TANIGUCHI MASAYASU], 上林 聰之 [KANBAYASHI SATOSHI], 砂原 央 [SUNAHARA HIROSHI], 櫻井 優 [SAKURAI MASASHI], 吉崎 韶子 [YOSHIZAKI KYOKO]					
区分	対象学生	獣医師免許保有者	対象年次		

使用言語
日本語
概要(共通教育の場合は平易な授業案内)

獣医学における社会人獣医師や女性獣医師の職業実践力育成プログラムである。本プログラムでは、馬救急医療を学修し、Hands-on臨床実習やグループディスカッションを実施することにより、救急医療実践力ならびに早期診断能力を得ることを目指す。社会人(女性獣医師)の学び直し、キャリアアップ、職場復帰のために必要な能力を習得する。

一般目標
事前自己学習<一般診断治療手技>や<重度外傷の標準的治療>等ではe-ラーニングを用いて基本的な馬救急医療学に関する知識の習得を目指す。集中実習<眼科>や<循環器科>等においてシミュレーター等を用いたHands-on臨床実習を行うことにより、馬救急医療における技術を習得させる。また、グループディスカッションを行うことにより馬救急医療に関する早期診断能力を習得させる。さらに、症例ディスカッションでは、e-ラーニング(ITを活用)を用いてグループディスカッションを行い、早期診断能力のスキルアップを目指す。

授業の到達目標
知識・理解の観点 e-ラーニングを用いて馬救急医療に必要となる診断および治療法の選択ができる技能および知識を再習得する。集中実習では馬の器官系統別・臓器別診断法ならびに治療法についてHands-on臨床実習を通じて、実践能力を養う。
思考・判断の観点 実際の臨床症例についてグループディスカッションならびに症例ディスカッションを行い、早期診断能力を高める。
関心・意欲の観点 自ら疑問を検索し解決できるよう、ディスカッションへの積極的な実習への参加が望まれる。
態度の観点 集中実習、グループディスカッション、症例ディスカッションに積極的に参加する。
技能・表現の観点 馬救急医療の診断法、治療法および予後判断について正しく説明できる。
その他の観点 繙続的な自己研鑽を行うための手法を学ぶ。

授業計画
【全体】
事前自己学習は<一般診断治療手技>や<重度外傷の標準的治療>等10科目(40時間)より構成され、基本的な馬救急医療学に関する知識を習得することを目指す。e-ラーニング(Moodleなど)を用いて、各自都合の良い時間帯(週末、夜間など)に各科目の資料(Equine Emergencies翻訳資料、テキスト等)について自己学習して小試験(10項目)により習熟度を確認するとともに、最終試験(修得基準60点)により評点を行う。集中実習((山口大学吉田キャンパス、8月中5日間))は<眼科>や<循環器科>等10科目(40時間)より構成され、馬救急医療における技術を習得することを目指す。集中実習では馬シミュレーター、臨床トレーニング教材、屠体材料、プラスティックボーン等を用いたHands-on臨床実習を行い、最終日にレポートを提出する。グループディスカッション(8月集中実習期間中3日間、10時間)では数名のグループで症例課題についてディスカッションを行い、馬救急医療に関する早期診断能力を習得することを目指す。最終日にグループごとにPower Point等を用いたプレゼンテーションを行う。症例ディスカッション(毎週金曜日夜、10時間)では、ITを活用したe-ラーニング(Moodle、Line等)を用いて受講者が症例紹介(もしくは課題症例紹介)して、グループディスカッションを双方向で行うことで早期診断能力のスキルアップを目指す。症例ディスカッションは9月～12月の毎週金曜日18:00-19:00(予定、必要に応じて週末・夜間などに補講開催)に開催し、10回(10時間)以上の参加を習得基準とする。症例ディスカッション後に各自症例学習レポート作成(20時間)して提出する。

【週単位】					
第1週	項目	内容		授業外指⽰	授業記録
	①一般診断治療手技(血液検査・静脈留置・感染症診断・バイオプシー・内視鏡・超音波) ②ショックとSIRSの管理、緊急時の麻酔・疼痛管理・栄養学ガイドライン	事前自己学習[e-ラーニング(Moodleなど)]			小テスト
	AL(アクティブ・ラーニング)				
第2週	グループワーク	ディスカッション・ディベート	フィールドワーク (実験・実習、演習を含む)	プレゼンテーション	振り返り
					○
	③重度外傷の標準的治療ならびに形成外科基本手技 ④眼・鼻・副鼻腔・咽喉頭・気管・肺の疾患の診断治療法	事前自己学習[e-ラーニング(Moodleなど)]			小テスト
第3週	AL(アクティブ・ラーニング)				
	グループワーク	ディスカッション・ディベート	フィールドワーク (実験・実習、演習を含む)	プレゼンテーション	振り返り
					○
	⑤胃・腸・肛門・ヘルニア・心臓の疾患の診断治療法 ⑥泌尿・生殖器の疾患の診断治療法	事前自己学習[e-ラーニング(Moodleなど)]			小テスト
	AL(アクティブ・ラーニング)				
	グループワーク	ディスカッション・ディベート	フィールドワーク (実験・実習、演習を含む)	プレゼンテーション	振り返り
					○

山口大学シラバス

第4週	(7)口腔・歯の疾患の診断治療法 (8)筋肉・腱・韌帯・腱鞘・滑液包の疾患の診断治療法		事前自己学習[e-ラーニング(Moodleなど)]				小テスト
	AL(アクティブ・ラーニング)						
	グループワーク	ディスカッション・ディベート	フィールドワーク (実験・実習、演習を含む)	プレゼンテーション	振り返り	宿題	
第5週	(9)骨・関節の疾患の診断治療法 (10)蹄・新生児の疾患の診断治療法		事前自己学習[e-ラーニング(Moodleなど)]				小テスト・最終試験
	AL(アクティブ・ラーニング)						
	グループワーク	ディスカッション・ディベート	フィールドワーク (実験・実習、演習を含む)	プレゼンテーション	振り返り	宿題	
第6週	(1)一般身体検査Hands-on(医療面接、診察、保定、採血、注射法、経鼻・経口投与法、歯科) (2)眼科Hands-on(各種検査法、局所麻酔法、角膜縫合、結膜ラップ、点眼留置、眼瞼縫合)		集中実習(山口大学吉田キャンパス) ・山口大学(実務家):佐々木直樹 ・外部講師(実務家):佐藤正人(NOSAI北海道)				レポート
	AL(アクティブ・ラーニング)						
	グループワーク	ディスカッション・ディベート	フィールドワーク (実験・実習、演習を含む)	プレゼンテーション	振り返り	宿題	
第7週	(3)循環器科Hands-on(心臓疾患の病態と病理解剖法、心電・心音図検査、超音波検査) (4)呼吸器科Hands-on(咽喉頭・喉嚨観察、気管支肺胞洗浄、円錐、永久気管開口術) (1)グループディスカッション (2)グループディスカッション		集中実習(山口大学吉田キャンパス) ・山口大学(実務家):佐々木直樹 ・外部講師(実務家):兼子樹広(循環器・元BTC) ・山口大学:上林 聰之、砂原 央(循環器) グループディスカッション(山口大学吉田キャンパス)				レポート
	AL(アクティブ・ラーニング)						
	グループワーク	ディスカッション・ディベート	フィールドワーク (実験・実習、演習を含む)	プレゼンテーション	振り返り	宿題	
第8週	(5)運動器科Hands-on(歩様検査、触診、診断麻酔法、関節鏡、屈腱超音波) (6)消化器科Hands-on(直腸検査、超音波検査、腹水検査、経鼻胃カテーテル) (3)グループディスカッション (4)グループディスカッション		集中実習(山口大学吉田キャンパス) ・山口大学(実務家):佐々木直樹 グループディスカッション(山口大学吉田キャンパス)				レポート
	AL(アクティブ・ラーニング)						
	グループワーク	ディスカッション・ディベート	フィールドワーク (実験・実習、演習を含む)	プレゼンテーション	振り返り	宿題	
第9週	(7)画像診断科Hands-on(X線撮影法、フィルムリーディング、四肢局所解剖、CT、MRI、核医学) (8)整形外科Hands-on(キャスト固定、AO法整形外科) (5)グループディスカッション		集中実習(山口大学吉田キャンパス) ・山口大学(実務家):佐々木直樹 ・外部講師(実務家):山田一孝(画像診断・麻布大学) グループディスカッション(山口大学吉田キャンパス)				レポート・プレゼンテーション
	AL(アクティブ・ラーニング)						
	グループワーク	ディスカッション・ディベート	フィールドワーク (実験・実習、演習を含む)	プレゼンテーション	振り返り	宿題	
第10週	(9)生殖器科Hands-on(生殖器解剖、超音波検査、直腸検査) (10)麻酔科・病理診断科Hands-on(倒馬・覚醒法、麻酔管理、局所解剖診断法)		集中実習(山口大学吉田キャンパス) ・山口大学(実務家):佐々木直樹 ・山口大学:高木光博、谷口雅康(生殖器) ・外部講師(実務家):村瀬晴崇(繁殖・JRA) ・外部講師:井芹 俊恵(麻酔科・東京農工大学) ・山口大学:櫻井 優、吉澤 韶子(病理診断)				レポート
	AL(アクティブ・ラーニング)						
	グループワーク	ディスカッション・ディベート	フィールドワーク (実験・実習、演習を含む)	プレゼンテーション	振り返り	宿題	
第11週	(1)症例ディスカッション (1)症例学習レポート作成		[e-ラーニング、双方向(Moodle, Lineなど)] ・山口大学(実務家):佐々木直樹				ディスカッション、レポート
	AL(アクティブ・ラーニング)						
	グループワーク	ディスカッション・ディベート	フィールドワーク (実験・実習、演習を含む)	プレゼンテーション	振り返り	宿題	
第12週	(2)症例ディスカッション (2)症例学習レポート作成		[e-ラーニング、双方向(Moodle, Lineなど)] ・山口大学(実務家):佐々木直樹				ディスカッション、レポート
	AL(アクティブ・ラーニング)						
	グループワーク	ディスカッション・ディベート	フィールドワーク (実験・実習、演習を含む)	プレゼンテーション	振り返り	宿題	
	○	○	○	○	○	○	

山口大学シラバス

第13週	③症例ディスカッション ③症例学習レポート作成		[e-ラーニング、双方向(Moodle、Lineなど)] ・山口大学(実務家):佐々木直樹				ディスカッション、レポート
	AL(アクティブ・ラーニング)						
	グループワーク	ディスカッション・ディベート	フィールドワーク (実験・実習、演習を含む)	プレゼンテーション	振り返り	宿題	
第14週	○		○	○	○	○	
	AL(アクティブ・ラーニング)						
	グループワーク	ディスカッション・ディベート	フィールドワーク (実験・実習、演習を含む)	プレゼンテーション	振り返り	宿題	
第15週	⑤症例ディスカッション ⑤症例学習レポート作成		[e-ラーニング、双方向(Moodle、Lineなど)] ・山口大学(実務家):佐々木直樹				ディスカッション、レポート
	AL(アクティブ・ラーニング)						
	グループワーク	ディスカッション・ディベート	フィールドワーク (実験・実習、演習を含む)	プレゼンテーション	振り返り	宿題	
第16週	○		○	○	○	○	
	AL(アクティブ・ラーニング)						
	グループワーク	ディスカッション・ディベート	フィールドワーク (実験・実習、演習を含む)	プレゼンテーション	振り返り	宿題	
第17週	⑦症例ディスカッション ⑦症例学習レポート作成		[e-ラーニング、双方向(Moodle、Lineなど)] ・山口大学(実務家):佐々木直樹				ディスカッション、レポート
	AL(アクティブ・ラーニング)						
	グループワーク	ディスカッション・ディベート	フィールドワーク (実験・実習、演習を含む)	プレゼンテーション	振り返り	宿題	
第18週	○		○	○	○	○	
	AL(アクティブ・ラーニング)						
	グループワーク	ディスカッション・ディベート	フィールドワーク (実験・実習、演習を含む)	プレゼンテーション	振り返り	宿題	
第19週	⑨症例ディスカッション ⑨症例学習レポート作成		[e-ラーニング、双方向(Moodle、Lineなど)] ・山口大学(実務家):佐々木直樹				ディスカッション、レポート
	AL(アクティブ・ラーニング)						
	グループワーク	ディスカッション・ディベート	フィールドワーク (実験・実習、演習を含む)	プレゼンテーション	振り返り	宿題	
第20週	○		○	○	○	○	
	AL(アクティブ・ラーニング)						
	グループワーク	ディスカッション・ディベート	フィールドワーク (実験・実習、演習を含む)	プレゼンテーション	振り返り	宿題	
成績評価法 【全体】 <p>事前自己学習は小試験により習熟度を確認するとともに、10科目終了時の最終試験(修得基準60点)により評点を行う。集中実習は最終日にレポートを提出する。グループディスカッションでは最終日にグループごとにPower Point等を用いたプレゼンテーションを行う。症例ディスカッション(10時間)では、10回(10時間)以上の参加を修得基準とし、症例ディスカッション後に各自症例学習レポート作成(20時間)して総合的に評価する。</p>							

山口大学シラバス

【観点別】(成績評価に際し、重点とする項目を◎または○にて記入してください。評価割合は、合計で100になるよう数字を入力してください。)							
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末試験)	◎	○					10%
小テスト・授業内レポート	○	◎	○		○		10%
宿題・授業外レポート	○	◎	○		○		10%
授業態度・授業への参加度			◎	○			20%
受講者の発表(プレゼン)・授業内の制作作品	○	◎	○	○	○		20%
演習							
出席			○	○			20%
その他(Hands-on)			○	○	◎		10%

教科書にかかわる情報

昨年度と同じ	教科書1	書名	Equine Emergencies, Treatment and Procedures, 4th Edition			ISBN	9781455708925
		著者名	James A. Orsini, Thomas J. Divers	出版社	SAUNERS	出版年	2014

教科書その他の情報

事前自己学習は教科書および配付資料により学習を行う。集中実習は配付資料により学習を行う。
--

参考書にかかわる情報

昨年度と同じ	参考書1	書名	馬臨床学			ISBN	978-4-89531-159-5
		著者名	樋口 徹 (監修)	出版社	緑書房	出版年	2014
昨年度と同じ	参考書2	書名	Manual of Equine Practice			ISBN	13: 978-0721637396
		著者名	R. J. Rose and D. R. Hodgson	出版社	SAUNDERS	出版年	2000
昨年度と同じ	参考書3	書名	The Equine Acute Abdomen			ISBN	978-1-119-06321-6
		著者名	Anthony T. Blikslager , Nathaniel A. White II , James N. Moore , Tim S. Mair	出版社	Wiley-Blackwell	出版年	2017
昨年度と同じ	参考書4	書名	Principles of Equine Osteosynthesis: Book & CD-ROM			ISBN	3-13-1-116671-1
		著者名	L. R. Bramlage	出版社	Thieme	出版年	1999
昨年度と同じ	参考書5	書名	Clinical Radiology of the Horse			ISBN	978-1-118-91228-7
		著者名	Janet A. Butler, Christopher M. Colles, Sue J. Dyson, Svend E. Kold,	出版社	Wiley-Blackwell	出版年	2017
昨年度と同じ	参考書6	書名	Equine Anesthesia: Monitoring and Emergency Therapy			ISBN	978-1-4160-2326-5
		著者名	William W. Muir III DVM PhD	出版社	ELSEVEIER	出版年	2009
昨年度と同じ	参考書7	書名	Equine Surgery			ISBN	978-1-4377-0867-7
		著者名	Jorg A. Auer	出版社	ELSEVEIER	出版年	2011
昨年度と同じ	参考書8	書名	Diagnostic and Surgical Arthroscopy in the Horse			ISBN	0-7234-3281-3
		著者名	C. Wayne McIlwraith, Alan J. Nixon and Ian M. Wright	出版社	ELSEVEIER	出版年	2015
昨年度と同じ	参考書9	書名	Equine Ophthalmology			ISBN	9.78112E+12
		著者名	Brian C. Gilger	出版社	Wiley-Blackwell	出版年	2016
昨年度と同じ	参考書10	書名	Equine Dentistry			ISBN	0-7020-2724-3
		著者名	Jack Easley	出版社	ELSEVEIER	出版年	2010
昨年度と同じ	参考書11	書名	Adams and Stashak's Lameness in Horses, 6th Edition			ISBN	978-0-813-81549-7
		著者名	Gary M. Baxter	出版社	Wiley-Blackwell	出版年	2011
昨年度と同じ	参考書12	書名	Equine Respiratory Medicine and Surgery			ISBN	9780702032684
		著者名	Bruce McGorum, N. Edward Robinson, James Schumacher, Padraig Dixon	出版社	ELSEVEIER	出版年	2007
昨年度と同じ	参考書13	書名	Manual of Equine Field Surgery			ISBN	1-4160-0270-7
		著者名	David A. Wilson, Joanne Kramer	出版社	SAUNDERS	出版年	2006

参考書その他の情報

参考書は集中実習で配付するHands-on臨床実習テキストに記載されている内容の原典であるので、不明な点は原典を確認してください。

メッセージ

馬の救急医療に必要な知識および技術をHands-onプログラムとグループディスカッションを通して学び直しましょう。e-ラーニングには大学のホームページを閲覧できるPC(もしくはタブレット)ならびにネット環境、PCからの連絡を受け取れる個人メールアドレス、症例ディスカッションで双方向通信をするための機器(wifi環境、PC、Webカメラ、マイク、スピーカー)などが必要となりますので、受講前に準備をしておいてください。

キーワード

Equine Emergency

関連科目

Equine Surgery, Equine Internal Medicine, Equine Reproduction, Equine Radiology

連絡先

佐々木直樹
〒753-8515 山口県山口市吉田1677-1本館217号室

E-mail: nsasaki@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

随時、メール(nsasaki@yamaguchi-u.ac.jp)で問い合わせしてください。